



五月晴れの青い空が眩しい季節。新学期も 1 か月あまりが過ぎ、新しい教室にすっかり馴染んだ様子の子どもたち。ゴールデンウィーク明けからは、1 年生の専科授業も始まりました。初めて触れる外国語、音楽、そして手仕事。ゆっくりと、確実に世界は広がっていきます。一方、十日市場校舎では今年も高学年による学園祭準備が始まっています。

オリンピックを終えて

6 年生の大きな行事、オリンピックが 4 月 28 日に行われました。藤野のシュタイナー学園・東京賢治シュタイナー学校・横浜シュタイナー学園の、三校の 6 年生が集う合同行事です。5 年生で古代ギリシアの歴史を学んだ子どもたちが、そのままタイムスリップをしたかのようにアテネ・コリントス・テーベ・スパルタの 4 つポリスに分かれ、キトンを身につけてたたかいました。競技も古代オリンピックにならい、幅跳び・円盤投げ・レスリング・中距離走・槍投げの五種競技です。本番の前には三度の合同練習会があり、子どもたちは回を重ねるごとにお互いの名前を覚え、だんだん打ち解けていきました。同じ教育を受けていながら学校ごとにカラーが違い、新鮮な出会いがあったようです。

午前中は幅跳び・円盤投げ・中距離走。おやつ休憩を挟んで、レスリング・槍投げ、最後はポリス対抗のリレーを行いました。円盤が大きく弧を描いて飛んでいくと、おお、という歓声が上がり、中距離走では顔を真っ赤にして走る姿にチームメイトや保護者の方々の温かい応援が飛びました。熱戦が繰り広げられたレスリングでは、声援が後押しをしたように両者譲らず、粘りに粘る試合がいくつも見られました。最後のリレーは、チーム対抗ということもあり、子どもたちの一番の力の入れどころです。追いつかれ追い抜き、割れんばかりの声援のなか手に汗握るたたかいになりました。



当日は気持ちよい青空のもと、各ポリスの威勢のいい詩の朗読で開会しました。笛で古代ギリシアの旋律が奏でられるなか聖火の火が熾されると、子どもたちの気分もさらに高まり、興奮とともに緊張で空気がピリリと引き締まりました。

勝ったチームも負けたチームも、お互いの全力のがんばりを心からねぎらっていました。競技をすべて終え、閉会式では、一人ひとりへの言葉が書かれた賞状とともにオリーブの冠が手渡されました。暑かった一日も終わり、帰途に就く子どもたちの表情には、どの子も力を出し切った後の清々しさが表れていました。気持ちのいい一日を過ごすことができました。

(6 年生担任 太田初)

シュタイナー学校の英語教育 特別講座開催報告

5月5日に、シュタイナー教育における1年生から9年生までの英語のカリキュラムを一日で概観できる特別講座が開催されました。

連休中の5月5日に「英語教員を目指す方への特別講座」シュタイナー学校の英語教育へようこそ！が開かれました。

朝10:00から15:30まで、一日でシュタイナー学校の1年生から9年生の授業までを駆け足で概観する講座でした。参加して下さったのは、遠くは岡山、京都、近隣で公立の先生をなさっている方、英語の塾を開いている方、大学の教授と研究室の学生さん、他のシュタイナー学校で英語教員をしている方、当学園の教員養成の受講生、保護者の方まで多様な参加者の皆さまにお越しいただきました。

そもそもなぜこの講座を企画したのか？それは…「英語専科の教員を募集している」からです。シュタイナー教育のさまざまな教科で、さまざまな学習内容の講座はあるのですが、なかなか英語だけに絞った講座は数が少ないということもあり、シュタイナー学校の英語教育への興味はあるけれど、様子がわからないから教員に応募するのはためられる、という声もあります。そこで、少しでも触れていただける講座を企画しました。

Down is the earth,
Up high is the sky,
...

まずは、この詩から始まる一年生の英語の授業を体験していただきました。詩のあとは、体の部位を言い、いくつかの手遊び歌を楽しみ、動きながら季節の歌を歌い、ゲームをしました。そして最後に、小さな、小さなお話を聞いてもらいました。ずっと英語だけでのやり取りなのですが、毎回同じ内容で進められる授業なので子どもたちは、最初は見ても、聞いてはいるだけでも、だんだん一緒に唱えたり、歌ったりするようになります。ここにある繰り返しには、授業の中で何度も同じ歌を歌うということもありますが、何か月も同じ内容を繰り返す、という意味もあります。模倣をする子どもたちと、繰り返しのある授業で子どもたちのリズムを整えていきます。その過程で子どもたちに変化が現れていきます。この講座を一回受けただけでは、その変化を実感するところまではいかなかったかも

しれませんが、「静かに流れる、芸術性のある授業だった」という感想をいただきました。

続くカリキュラムの話では低学年から高学年までの英語の授業の中での大切な点について確認し、文字の導入でアルファベットの文字を2文字学び、書くこと、読むこと、そして文法の高学年での深まりなど、一度の講座では伝えきれないほどの内容がありました。受講生の方からは「低学年の活動が高学年での文法の学びにつながっていることがわかった」というお声もあり、熱心な受講生の方々と一緒に学ぶ充実した一日となりました。



生徒のノートより

さて、教員募集のほうは、というとまだ募集中です。ご興味があるかたぜひ一緒に当学園で働きましょう。ともに研鑽しながら歩んでいける仲間を募集しております！

(英語教員 渡辺未穂子)

※ 教師募集についての情報は、学園サイトに掲載されております。

(広報の会)

校内研修会 報告

横浜シュタイナー学園では、毎年春と夏に教員会主催で保護者向けの校内研修を行っています。今年のテーマは「シュタイナー学校の性教育と家庭の役割」～東海大学国際学科教授の小貫大輔氏を講師としてお招きしました。

「性教育」と聞くと、なんとなく身構えてしまうような、気恥ずかしいような気がしてしまうのはなぜだろう。そんな感覚の奥底をあらためて掬ってみると、「言わぬが花」ではないが、奥ゆかしさに美德を求める日本古来の美意識のような恥じらいのようなものではないだろうか。そうしてとかく、私たち日本人はものごとを秘めやすい。

とはいえ、秘めればなおさら知りたくなる、というのも人の心かもしれない。ふと私たちの周りに目を移せば、巷には、もはや対象の区別もなく実にさまざまな情報やものがあふれてしまっている現代の日本。性について堂々と語るべきか、語らざるべきか？この国で、これから成長の時期を迎える子を持つ親たちは大いに悩んでいる。

2018年校内研修のテーマは「シュタイナー学校の性教育と家庭の役割」。講師に東海大学国際学科教授の小貫大輔氏をお迎えした。多岐に渡る小貫氏の活動と学園とはかかわりも深く、進行の長井先生が紹介するとおり『満を持して』の登場である。

冒頭、小貫氏はシュタイナーの残したことばのひとつに触れる。『未来の人類は隣人が不幸である限り、誰も安らいたく気持ちで自分の幸せを喜ぶことはできなくなる R・シュタイナー』。

シュタイナーの人権思想の中核を成す「自由・平等・友愛」のうち「友愛」を表すことばだ。それは「他人の立場に立ち、それを自分のものとして感じる力」。Sympathy～同情ではなく、Empathy～共感だ。最近では企業などでも「人間力」をはかる資質として挙げられることも多い。

7歳までは夢の中、そして9歳頃に自我が目覚めてくるまで、子どもは世界と一体である。そして自分というものがゆるやかに輪郭を持ち、自分を認識し始めると同時に他者を認識し始める。思春期とはまさにその次の段階～自分自身への関心と、他者への関心を持つこと。心身ともに、だ。小貫氏は語る。性教育とはエンパシー、すなわち「共感する力」を子どもの中に育むことに他ならない。自分とは異なる性「異性」に対しても、相手の立場に立ち、その立場を理解し尊重できること。そうした感性はもちろん性についてだけではなく、全く違う個性を持つ人間同士がひとつの世界で幸せに生きていくための、最も大事な資質のひとつといえるだろう。

講座は、氏の大学での講義を模して、3つの国の流儀にのっとった挨拶を交わすことで始まった。日本流のお辞儀、ドイツ流の握手、そしてブラジル流、お互いの頬を寄せてのキス（…しかも3回）！挨拶を交わす度、お互いの距離が物理的に近づくのがわかる。それだけではない。挨拶ひとつ、それぞれの背負った文化背景が浮き彫りにされてくるようだ。視線をあえてそらし両手を前に添え、無防備な体制をとるお辞儀。武士の時代にそうして相手を信頼し敬意を表したことが始まり、ともいわれるが、相手にゆだねるような日本の敬意の表し方だ。対して、目を合わせ、力を込めて組む両手には、対等の立場を顕示するような強さと自信を感じる。そして、ラテンの距離の近さはまさに相手の懐に飛び込む、触れる。そこには推し測るような「距離」は無い。ストレートだ。

挨拶ひとつでこれだけ違うものか、と実感すると同時に深く感心する。どれがいい、悪いではない。ただ、違うのだ。そしてその「違い」を知ったとき、人は今度は自分に問うだろう。『では自分はなにを選ぶのか？』と。

小貫氏は問いかける。「さて、皆さんは娘のボーイフレンドを自宅の娘の部屋に泊めますか？」会場の親たちは大いに戸惑った。オランダでは「泊める」親が圧倒的多数だそう。本当に？会場から動揺の声が上がる。本当に。何故なら「どこよりも、自宅が娘にとって安全で安心できる場所だから」。そうしてオランダの親たちは「自分の子に起こるすべてのことは、他でもない、自分が知っておきたい」のだそう。

そこに正解はない。私たちは「違い」を知ること、今度は自分たちのスタンダードを自分たちで探していかなければならないのだと思う。ヨーロッパとブラジルで芽生えてきたシュタイナー教育における「性教育」もまだまだ途上であり、日本のシュタイナー学校もいまだ方針を模索中のようだ。家庭と学校とがコミュニケーションを重ね、時には異なる価値観を突き合わせて、それでもともにその道筋を探していくことができたらいい、と願っている。

(5年生保護者 石倉義子)

講師:小貫大輔(おぬき だいすけ)

東海大学国際学科教授。1988年にブラジルに渡り、エイズ予防、自然分娩・母乳育児の推進、子育て支援、識字活動などの分野で活動。2006年に帰国して現職。帰国後は、日本のブラジル学校など外国学校やオルタナティブ学校への支援に力を入れてきた。ブラジルと日本をつなぐ団体「CRI・チルドレンズ・リソース・インターナショナル」運営委員。日本性教育協会理事。

インフォメーション

～詳細については学園サイトをご覧ください～

2019年度入学説明会

6月23日(土) [A]

14:00～16:00 霧が丘校舎

6月30日(土) [B]

10:00～12:30 十日市場校舎

【今後の日程】

9月15日(土) [A]

9月22日(土) [B]

9月23日(日) [A]

9月30日(日) [B]

※ 参加費 無料

※2019年度に入学をご希望の方は、A→Bの順で両方の回に必ずご出席ください。

妊婦さん・乳幼児家庭向け講演会

「こどもと暮らし」

幼児教育のプロフェッショナルをお迎えしての特別講座

日程:

第1回目 6月3日(日) 10:00～12:00

講師: 松浦園 (なのはな園教師)

第2回目 7月15日(日) 10:00～12:00

講師: 宮地陽子

(横浜シュタイナーこどもの園教師)

定員: 各15名

※ 参加費 各回1500円

連続講座

「多面的シュタイナー考察」⑤

宗教2 「悪について」

日時: 7月16日(月祝) 13:00～15:00

講師: 輿石祥三 (キリスト者共同体・司祭)

※ 参加費 2000円 (NPO会員1500円)

連続講座

「シュタイナー学校を知りたい2018」

【第2回目】 大人のための体験授業Ⅰ

低学年編「かずの学び」

日時: 7月8日(日) 10:00～12:00

【第3回目】 大人のための体験授業Ⅱ

高学年編「音響学」

日時: 7月8日(日) 13:30～15:30

定員: 各20名

※ 参加費 各回1500円 (NPO会員1300円)

1日通し料金あり

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替: 00260-0-130702

加入者名: 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行: 店番029 支店名029店(せにきり店) 当座013702

2018 オープンデイ&学園祭

「今こそ、教育をえらぼう」

6月16日(土) 10:00～15:00

日頃、当学園で行っている教育や教室の様子、子どもたちの作品などを公開する『オープンデイ』を霧が丘校舎にて開催

十日市場校舎では高学年による『学園祭』を同時開催
学園祭は、すべて7,8,9年生による手づくり企画

ぜひ、両校舎とも足を運んでみてください。

★ 学園祭(十日市場校舎)から回ると、比較的ゆったりご覧いただけます。



☆ 星の金貨 ☆

オープンデイをはじめ、各種講座の際には、スクールショップ星の金貨にお立ち寄りください。

子ども達も使用している文具類の他、季節のポストカード、虹染め布、木のおもちゃ、木の器、編みぐるみ、書籍、貴石、ヴェレダ商品など取り揃えてお待ちしております。

お問い合わせ e-mail: hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

ご寄付ありがとうございます

(順不同・敬称略)

田中巖、加藤洋子、霧が丘グランド整備謝金、澤口直也(ルドルフ・シュタイナーハウス)、保育グループ、山本忍(神之木クリニック)、卒業おたのしみ会有志、星の金貨

皆様からのご寄付は、大切に活用させていただきます。

心より感謝申し上げます。

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第111号～

2018年5月29日発行

編集: 広報の会

発行: NPO法人横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします